

今週の 視点 論点

今 回のコラムでは、身近な食材である牛肉や牛乳の生産現場にスポットライトを当ててみよう。

畜産・酪農で育てられている「牛」にはさまざまな分類が存在する。まずは、牛肉用の牛である「肉牛」と、牛乳を産出する「乳牛」に大きく分けられる。私たち消費者がスーパーマーケットで目にする牛肉のパッケージの表示を見ると、「和牛」「国産牛」「輸入牛（〇〇産）」といった文言が書かれていることに気付く。

和牛とは明治時代以前から日本で飼われていた在来種を基に交配・改

良した特定の品種＝黒毛和種、褐毛和種（あかうし）、日本短角種、無角和種、及び当該4品種間の交配＝、高品質な肉質が特徴である。神戸ビーフなどの霜降りの黒毛和牛は海外輸出も盛んで、日本を象徴する食材の一つとなっている。

一方、言葉が似ている国産牛だが、こちらは国内で育てた牛で品種は問わない。例えば父親が和牛、母親がホルスタイン（代表的な乳牛）のように違う品種の親から産まれた交雑牛、雄のホルスタイン、加齢により廃用になった乳牛（雌）などが挙げられる。肉質向上に特化して品種改良されている和牛に比べて一般的に肉質が劣るとされており、単価も相対的に安い。（ただし、最近の赤身肉ブームで交雑牛も脚光を浴びており、少数ではあるがブランド交雑牛も出現している）

近年、和牛の肥育農家を苦しめているのが、和牛の子牛価格の高騰だ。和牛の生産は多くの場合、子牛を産ませる繁殖農家と、子牛を購入して大きく育てる肥育農家の分業体制となっている。最近、畜産農家の高齢化、離農により、特に繁殖農家の生産能力が低下してしまい、子牛の価

格が上がっていると指摘されている。子牛価格の高騰は肥育農家の収益性を圧迫しており、日本を代表する食材である和牛の生産基盤が足元から崩れつつあると言えよう。

このような問題に対して、新たな技術の導入が急ピッチで進んでいる。それが受精卵移植である。酪農では、ホルスタインなどの母牛が妊娠・出産することで牛乳を出すようになる。これまでは両親ともにホルスタイン、もしくは父親が和牛で母親がホルスタインの交雑牛を出産していたのだが、最新技術ではなんと「ホルスタインが和牛を産む」ことが可能になったのである。

そのからくりは、事前に雄の和牛と雌の和牛由来の「和牛の受精卵」を作り、それを雌のホルスタインに移植するというものである。これに

より雌のホルスタインは価格の高い和牛の子牛を産み、かつ牛乳を出すことが可能になり、農家収入の向上が達成される。また和牛の子牛の生産能力が増強されることで、全国的な和牛の子牛不足の解消に効果を発揮し始めている。まさに、新たな先進技術が農家・農業を救う好事例と言えよう。

他方で、一部の地域では和牛の受精卵移植の副作用として、雌のホルスタインが不足するという新たな問題が生じている。雌のホルスタインの子牛は次代の母牛となるが、受精卵移植の普及に伴い子牛の一部が和牛として生まれてくる。そのため、雌のホルスタインの絶対数が不足してしまい、牛乳の生産基盤の弱体化が危惧されているのである。

そこで次の一手として、ホルスタ

ホルスタインから和牛が産まれる!? ～畜産・酪農最前線～



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
シニアスペシャリスト

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。16年4月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。著書に「IoTが拓く次世代農業—アグリカルチャー4.0の時代—」（日刊工業新聞社、共著）など。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構常務取締役）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センターシニアスペシャリスト）が交代で執筆します。

「自然の恵み」である牛肉や牛乳の安定供給の裏に、実は多くの研究者と畜産・酪農家の研究開発・実用化における不断の努力があることを知ると、日頃の食卓に並ぶ食材のありがたみがいっそう増すのではないだろうか。

「地方に求められる抜本的な構造改革」



早稲田大名誉教授、元三重県知事 北川 正恭氏

講師略歴 1944（昭和19）年三重県生まれ。早稲田大商学部卒業後、同県議、衆院議員を経て95年から三重県知事（2期）。この間「生活者起点」を掲げて改革を進め、地方分権の旗手として活動。事業の達成目標、手段、財源等を住民に約束する「マニフェスト」の提言者でもある。「新しい日本をつくる国民会議（21世紀臨調）」共同代表。専門は地方自治。

島根政経懇話会 第300回記念例会

日時 5月23日（水） 正午～午後2時
会場 ホテル一畑（松江市千鳥町）

入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。